

UIFA JAPON

NEWSLETTER

特集ザ・インタビュー -UIFA JAPON会長中原暢子氏、第12回日本実行委員長松川淳子氏

ザ・インタビュー第6回目は、中原暢子会長と松川淳子実行委員長をゲストに迎え、間近に控えたUIFA日本大会への抱負等を語っていただきました。頼あゆみ実行委員をインタビュアーに、収録は東京都庁20階の見晴らしのよい会議室で行われ、広報部会の渡辺喜代美と田中厚子が同席しました。小川信子副会長は残念ながら出席できず、寄稿でエールを送っていただきました。

□ □ □

頼：UIFA日本大会まで残り僅かですが、現在の状況をお聞かせいただけますか。

松川：参加申し込み数は200を大きく上回り、今まで馴染みがなかった国からの参加も多くて、今は嬉しい気持ちと期待に答えねばという気持ちで緊張しています。アブストラクトの登録も予想以上だったため、会議の開始時間を30分繰り上げたり、10分から15分で考えていた発表時間を10分に決めたりしなければなりません。皆さん長く発表したいと思うのですが、全員に発表の機会をということでお許し願っています。分科会方式とはらず、論文発表の会場は一つ、全員が聞ける体制にしました。

頼：そもそも日本にUIFA大会を誘致したきっかけは？

中原：70年代から日本に呼びたいという声はありました。特にUIFA JAPON を設立した6年前からは、ド・ラ・トゥール会長がお元氣なうちにぜひ開催したいという声が強くなってきました。

頼：UIFA設立当初から日本は参加していたのですか？

中原：UIFAが設立された1963年の第1回のパリ大会から日本は参加しているのです。その時は草野さんと私と、それからフランス留学中だった林宜子さんの3人でした。

頼：UIFA参加の最初のきっかけは何だったのですか。

中原：ド・ラ・トゥールさんから、日本建築学会に連絡がきたのです。その頃ポドコという女性建築家の会がありましたので、そこに話が来て軽い気持ちで参加しました。

松川：私は1983年のパリ大会から。20周年で盛大でした。

頼：今まで参加されて印象に残った大会は？

中原：第一回パリ大会ですね。アンドレ・マルロー氏や、イラン首相のお嬢さんがいらしてたりで派手でしたね。セーヌ川に船を浮かべて花火を打ち上げたり。皆さん、朝、昼、晩と衣装を替えるので、びっくりしました。当時の日本からは想像できない世界でしたね。その後はそんなに派手ではありませんけど。

松川：私が参加した1983年のパリ大会は、「子どものための環境」がテーマで、私の仕事と深く関係していたので、自分の成果を持って参加したのです。各国のUIFAの代表者が壇上に揃っていて、こんなに世界に女性建築家がいるんだと感激しました。ミッテラン政権の時に、女性権利省ができた頃です。女性建築家達が日常の仕事を発表しながら、それを

明日の環境に結び付けようと模索するところがいいなと思いました。

頼：それでは日本大会はどういう大会にしたいとお考えですか。

中原：メインテーマにしたがって、環境のことを考え、問題点を抽出していくことが大事だと思います。

松川：国際会議は7日間通しての一種の共同作業だと思います。壮大な共同作業に携わること自体に意味があるし、その共同作業の中から21世紀に向けて橋を架けようということですから、そこを大事にしたいと思います。普段馴染みのない国の方とも交流の輪を深めたいし、開発途上の国の方に日本の現状での問題点の中から何かメッセージが送れればとも思います。

中原：毎回国際会議で思うけど、国ごとに考え方がそれぞれ違いますね。違うことを知ることが面白いの。

頼：7日間の成果として、財政その他サポートして下さる方々、或いは社会に対してどのようなことを還元できるのでしょうか。

中原：本当に還元できるような成果を期待して取り組むしかありません。

松川：参加者がそれぞれの国に戻って仕事をする、その方達と連帯しながら地球規模で考える第一歩にはなりますね。女性の建築家たちの会議だということいろいろ言われますが、これからは女性が環境創造に携わる機会も増えるだろうし、その時に地球全体のことを考えながらつくるというのが基本的な成果だと思います。まちづくりに対する問題提起もたくさん出ると思います。建築学会の会長もおっしゃいましたが、専門分化した仕事、まちの現実に対してどんな力を持っているのか解らなくなってしまっているという問題があります。自分の仕事の原点に立ち戻る中から、現実的な良い提案が出るといいなと思っています。

中原：日本の現状を知ってもらいたい。それも成果の一つでしょう。

頼：「なぜ今、女性だけの会議を」という点は？

中原：UIFAは今始まったわけではなく、35年前からです。当時は男女の格差が歴然としていました。以後、格差は少なくなっていますが、もっと女性の力を出す為には纏まっていることも無意味ではないと思います。

松川：法や制度も整備されてきた今、表面的には男女平等は実現しているかのように見えています。こんな時代だからこそ、本当に自分は何ができるか、責任から逃げずに仕事をやっているのかを問い直す作業も必要だと思います。時々自分を試練にかけないと。

頼：一般的に男性社会に女性が入る時には、女性の視点を取入れるという考え方が多かったと思うのですが、今後についてはどうお考えですか。

中原：私は女性の建築家としたら早い方に属しますが、男女差というのを考えたことはありませんね。でも現実に仕事が入らなければ設計事務所はやっていけません。最近まで、大きな仕事が取れない落ち徳拾いの状態で、そういう格差は感じていましたが、仕事の内容自体に男女差はないと思います。今は女性も外部からだいぶ認められてきましたけど。

松川：建築という仕事は、経験に負う部分が多いですよね。専門的知識

と同時に、経験や体験の比重が高いとされています。だから女性の視点が重視される面があるのでしょうか、今まであまりにもこの分野に対して女性が関与するチャンスが少なかったという点もあります。気付いたことをちゃんと言っていくことが大切ですね。

中原：我々の世代は、ものすごい男女のレベル差があったわけです。うちの事務所が出来て40年ですから、やはり100年200年の歴史を積まないとなかなか本当の実力、実績主義にはならないのではないのでしょうか。

渡辺：少子・高齢社会に関することや、安心・安全、バリアフリーなどの会議や研究、実践活動には女性が多くなっています。今まで男性が関心を示さなideきた分野がありますね。

松川：建築界が目をむけていなかったのと、いざ目をむけてみると、女性の方が身を以て体験してきてずっと良く解っているという利点がありますよね。

頼：UIFAの魅力や役割についてお聞かせください。

松川：建築をグローバルな問題として捉える時代になっていますから、自分の机上の仕事を世界と結び付けて考えるのが大事だと思います。

この大会の準備をしながら、苦しいことも沢山あるのですが、アルゼンチンのような地球の裏側の国から「3人で支部をつくったので9月にはぜひ日本に行きたい」という連絡が入ると、本当に苦勞のしかいがあると思えます。モンゴルやラトビアからも連絡が入りました。いつかモンゴルに行って家を見てこようと思ったりするのも楽しい。UIFAの魅力は、広く物事を考えていけるところでしょうか。

頼：参加してわかる良さなのですね。

中原：UIFA会員の中にはもちろん大変な勉強家もいるけど、中には色々な国に行けるからというので参加している方もおられますよ。旅行目的であっても、現実を見るだけで勉強ですからね。

頼：今回の会議からも参加者が何かを得て帰るのは勿論ですが、参加できなかった方や、UIFA外部の方々への還元はどんな形で行うのですか。

中原：直接的には報告書ですね。

松川：報告書以外にも、報道ツールを持っている組織から成果を書いて欲しいと言われています。それから間接か直接か解りませんが、日々の仕事に生かすというの広い意味での還元ですね。大会の最後に、事務局会議で総括するのですが、そこで発表するペーパーが、外部へのメッセージになると一番いいと思います。参加国の合意が得られれば、手を繋いで歩み出そうというものを大会からのメッセージとして生み出したと思っています。

中原：大上段に構えなくても、何か提言をしたいですね。そうなるように頑張らなくてはね。でも、良くここまでできましたよね。松川さんはじめ皆さんのお陰です。

頼：最後に、会員はじめ関係者の皆さんに一言お願いします。

中原：皆さんぜひ参加してください。そして、のびのびと楽しく様々な

行事やセッションに参加して視野を世界に広げていきましょう。

松川：7日間の楽しい共同作業を一緒にやりましょう。その前の準備は、歯を食いしばってやりましょう。(笑)とにかく、「さあキャンパスはできました。みんなで素敵な絵を描きましょう」という感じです。多少穴の開いたキャンパスでも、繕いながら何とか仕上げましょう。(笑)実行委員会の皆さんのエネルギーは本当に素晴らしいと思います。

中原：実行委員会のアイデアは素晴らしかった。ワークショップから始めて実行委員会の人数がどんどん増えたのが嬉しかったですね。

頼：大会の成功と、大会後のUIFA JAPONの発展を願って今日のインタビューを終わらせていただきます。ありがとうございました。

(記録校正：渡辺・田中)

中原暢子：家政学院大学教授、林・山田・中原設計同人代表

松川淳子：株式会社生活構造研究所代表

頼あゆみ：国土庁計画・調整局総務課課長補佐

■寄稿

UIFA JAPON副会長 小川信子

東京で生まれ育ち仕事をしてきたものが、4月から北海道女子大学に勤務することにより、日々の生活環境が変化しました。千歳国際空港から札幌に至る車窓に移る景色は、羽田周辺とは格段に異なり、緑豊かな北の大地ですが、徐々に都市化し無秩序に変わりゆく姿をみて、人は自然を破壊しながら都市をつくっていることを痛感しています。

人が生活するという事は、自然との戦いであった時もあり、ある意味では今でも続いています。一時期、日本は、人間の共存のために大量な森林を開発し、工業化を急ぐあまり工業用廃棄物で河川や国土や海を汚染し、環境を悪化させながら発展を続けてきました。ここにきてやっと日本でも開発・生産のシステムの見直しをしながら、破壊した状態から罰を受けつつ真の意味での環境共生を、そして21世紀に向けての新しい調和的関係を模索しています。これは一国の問題として終わるのではなく、水、空気、土を通して地球規模で考えねばなりません。

今回の会議で生命の母である女性が集い、共に考え、話し合い、創造のための指標を見いだすことができたなら、非常に意義深いものとなりましょう。20世紀末最後に、UIFAの国際会議をアジアで、世界初の核による被爆国でもある日本で行うことは、記念すべき意味をもつと思います。

広報日より

6回のザ・インタビューを通してUIFA JAPONへの期待と助言に緊張もし、元気も出た。いよいよあと一歩でUIFA'98開会。大きな力を発揮した実行委員会のメンバー、支援くださる方々に心からお礼申し上げ、大会の成功を願って、仕上げに向けて、夏バテせずにがんばりましょう。

(本号は特版のため、新人紹介等の続きは次号掲載となります)

飯島、渡辺、田中

12th CONGRESS OF THE INTERNATIONAL UNION OF WOMEN ARCHITECTS



UIFA'98

September 1~7, 1998
Tokyo/Yokohama, JAPAN

NEWSLETTER

MO P A L A F I A

Beer Iengua 13.00

People, Architecture and Cities in an Era of Environmental Coexistence

環境共生時代の人・建築・都市
—21世紀における新しい調和的関係を模索しながら—



Main Congress

1st Floor, International Conference Hall, National Olympics Memorial Youth Center

Paper Presentation Sessions

Wednesday, September 2nd Humanity and the Environment
Thursday, September 3rd Architecture and the Environment
Friday, September 4th Cities and the Environment

Exhibition

Shinjuku Park Tower, 1st Floor
10:30 ~ 18:30, Wednesday, September 2nd ~ Sunday, September 6th

Open Symposium in Yokohama

Yokohama Landmark Plaza, 5th Floor Landmark Hall
14:00 ~ 16:30, Saturday, September 5th

«An Examination of Cities and Dwelling Patterns for Tomorrow
—From Japan to the World and from the World to Japan—»

Panel Discussion Open to the General Public

Mailing address

UIFA '98
c/o Laboratory for Innovators of Quality of Life
Koujimachi E.C.K.Bldg. 2-6-5 Koujimachi, Chiyoda-ku, Tokyo 102-0083, Japan
Phone : +81-3-5275-7861 Fax : +81-3-5275-7866

大会会場

国立オリンピック記念青少年総合センター1階・国際会議室
参加資格 会員・非会員・性別不問 発表代表者—UIFA会員

発表・討論

9月2日(水) 人と環境
9月3日(木) 建築と環境
9月4日(金) 都市と環境

展示

9月2日(水)~9月6日(日) 10:30~18:30
新宿パークタワー1階 [入場無料]

公開シンポジウム(横浜)

9月5日(土) 14:00~16:30
横浜ランドマークプラザ5階 ランドマークホール
テーマ (明日のすまいとまちを考える—日本から世界へ、世界から日本へ—)
市民公開パネルディスカッション

後援

建設省
東京都
神奈川県
兵庫県
横浜府
神戸市
堺市区
世田谷区
総合研究開発機構
(財)日本建築センター
(社)日本都市計画学会
(社)日本建築学会
(社)日本建築士会連合会
(社)東京建築士会
(社)神奈川県建築士会
(社)兵庫県建築士会
(社)日本建築家協会
(社)全日本建築士会

助成

財団法人三菱建設振興財団
(財)東京都女性財団
(財)日本万国博覧会記念協会
(財)ユニオ・造形文化財団

協賛

(財)東京都都市建設公社
(財)東京都東区東区公社
(財)東京都公園協会
東京都住宅供給公社
財団法人国際開発財団
(財)日本建築家団体連合会
都市事業連合会
(財)インテリア産業協会
セコム株式会社

協力

国際建築展覧会
東京女子大学国際電気公社
(株)オカムラ

大会事務局：UIFA '98

〒102-0083 千代田区麹町2-6-5 麹町E・C・Kビル5階
(株)生活創造研究所内
TEL : 03-5275-7861 FAX : 03-5275-7866

UIFA 国際女性建築家会議 第12回日本大会 1998年9月1日(火)~9月7日(月)

12th CONGRESS OF THE INTERNATIONAL UNION OF WOMEN ARCHITECTS

UIFA '98

September 1~7, 1998
Tokyo/Yokohama, JAPAN

People, Architecture and Cities in an Era of Environmental Coexistence

環境共生時代の人・建築・都市
—21世紀における新しい調和的関係を模索しながら—



Main Congress

1st Floor, International Conference Hall, National Olympics Memorial Youth Center

Paper Presentation Sessions

Wednesday, September 2nd Humanity and the Environment
Thursday, September 3rd Architecture and the Environment
Friday, September 4th Cities and the Environment

Exhibition

Shinjuku Park Tower, 1st Floor
10:30 ~ 18:30, Wednesday, September 2nd ~ Sunday, September 6th

Open Symposium in Yokohama

Yokohama Landmark Plaza, 5th Floor Landmark Hall
14:00 ~ 16:30, Saturday, September 5th
(An Examination of Cities and Dwelling Patterns for Tomorrow
—from Japan to the World and from the World to Japan
Panel Discussion Open to the General Public

Mailing address

UIFA'98
c/o Laboratory for Innovators of Quality of Life
Koujimachi E.C.K.Bldg, 2-6-5 Koujimachi, Chiyoda-ku, Tokyo 102-0083, Japan
Phone : +81-3-5275-7861 Fax : +81-3-5275-7866

大会会場

国立オリンピック記念青少年総合センター1階・国際会議室
参加資格 会員・非会員・性別不問 発表代表者・UIFA会員

発表・討論

9月2日(水) 人と環境
9月3日(木) 建築と環境
9月4日(金) 都市と環境

展示

9月2日(水)~9月6日(日) 10:30~18:30
新宿パークタワー1階 [入場無料]

公開シンポジウム(横浜)

9月5日(土) 14:00~16:30
横浜ランドマークプラザ5階 ランドマークホール
テーマ「明日のすまいとまちを考える—日本から世界へ、世界から日本へ」
市民公開パネルディスカッション

後援

建設省
東京都
神奈川県
兵庫県

協賛

横濱市
神戸市
墨田区
豊田谷区
総合研究開発機構
(財)日本建築センター
(社)日本都市計画学会
(社)日本建築学会
(社)日本建築士会連合会
(社)東京建築士会
(社)神奈川県建築士会
(社)兵庫県建築士会
(社)日本建築家協会
(社)全日本建築士会

助成

(財)トステム建材産業振興財団
(財)東京都女性財団
(財)日本万国博覧会記念協会
(財)ユニオン造形文化財団

協賛

(財)東京都都市建設公社
(財)東京都建築公社
(財)東京都公園協会
東京都住宅供給公社
(財)生活文化財団
(社)日本建築業団体連合会
電気事業連合会
(財)イノベーション推進協会
セコム株式会社

協力

国際観光振興会
東京ガス都市開発株式会社
(株)ナカマ

大会事務局：UIFA'98
〒102-0083 千代田区麹町2-6-5 麹町E・C・Kビル5階
(株)生活構造研究所内
TEL: 03-5275-7861 FAX: 03-5275-7866

UIFA 国際女性建築家会議 第12回日本大会 1998年9月1日(火)~9月7日(月)